分科会３　テーマ①　市街地整備(土地利用・道路・交通・住環境・景観)　1/4

強み	弱み

●：２つ以上の意見

交通環境

- 都心へのアクセスのよさ ●
- 交通の便が良いところ。
- 都内(新宿)へ**通勤する人には買い物も便利**で住みやすい。
- 市内に京王線の駅が９個もあり，東西の移動がしやすい。
- 京王線の特急・通勤快速停車駅があり、**都心との接続利便性に優れている。**駅前駐輪場が整備されている。
- 南北方向の**バス路線が豊富**なこと。
- シェアサイクル拠点の点在により市内の回遊性が高い
- 調布飛行場から伊豆諸島への定期便という素晴らしい交通インフラがあるが、市政として福祉や観光・産業振興に活用出来ていない。自転車専用パスが整備されていない。
- 市内に水素ステーションがない。導入してもよいのではないか。
- 調布駅周辺の線路が地下化されて、交通がスムーズになったこと。
- 京王線の地下化に伴い，南北の移動がスムーズになった。
- 東西方向のバス路線がほとんど無いこと。
- **歩くための動線がない。**計画的に野川方面、深大寺方面、多摩川方面のように明確に歩行者と自転車の為の道を作る。
- 子どもが過ごす空間の交通量（安全性）を改善したい。
- 調布飛行場から伊豆諸島への定期便という素晴らしい交通インフラがあるが、市政として福祉や観光・産業振興に活用出来ていない。自転車専用パスが整備されていない。
- 市内交通網の限定（南北の移動がバス及び車に限られる）
- 京王線以外の交通アクセスの利便性 ●
- 電気自動車のシェアリングなど環境に配慮した自動車利用を促進する必要がある
- 市には一つ一つ良い要素があるのに，**インフラとしてつながっていない**

道路整備

- 道路網も発達していること。
- 道路が狭く通行しにくいところがある ●
- 街灯の間隔が広く且つ高い位置にあるため、歩行者の安全を守れないこと。
- 道路整備が進んだことで、広くゆったりとした空間が生まれたこと。
- 国領緑化部分の案．車道の相互通行が危険で心配。
- 住宅街を中心に，道路や歩道が狭い。大きいベビーカーでも歩いていけるように
- 電車が立体化された。地上部が緑道化される。
- 住宅地等の道が狭かったり，路面が荒れていたりと整備が完全に行き届いていない。
- 大きな道路（甲州街道，東八道路，鶴川街道他）が南北・東西に走っており，しっかり整備がされている。
- **歩いて楽しみながら市内の名所を回れるような市街地整備が出来ると良い。**（深大寺までの道のりをバスだけでなく，徒歩でも観光しながら行ける等）
- **新たに整備する道路では，歩きやすさなど時代に合わせたもの**を（計画はあれども）安全安心・健康の視点も
- 道路の使い方（車両分離で車・歩行者の双方に安心安全）
- バスの便数に偏りがある（同じ鉄道駅がないところでも，便数が多いエリアと少ないエリアがある）。
- 緊急時等に足の不自由な方等が移動しやすいよう，バリアフリーを推進する。
- 定期的な**歩行者天国**の実施（**にぎわい創出にも寄与**）
- 道路が狭いから建築ができない部分がある
- 放置自転車が場所により多い。
- 自転車のマナーが悪い。
- 歩道がない道が多い、自転車用の道もない
- EVの充電スタンドの整備
- **自転車の通行が困難な場所が多い**
- 道路や広場などバリアフリー化されていない箇所がある。
- 調布駅周辺歩車分離等、100年長期都市構想が無い。
- 狭い道で駐停車禁止じゃないところが多く、車が多く停まっている

分科会３　テーマ①　市街地整備(土地利用・道路・交通・住環境・景観)　2/4

強み	弱み

●：２つ以上の意見

駅前広場・駅周辺整備

- 駅前施設の充実
- 調布駅前広場の整備によるにぎわいの創出
- ラグビーW杯などの駅前広場でのにぎわい
- **駅前の広場ほかの街にはない利活用ができる。**
- 南北を縦断する道路、広場が出来たこと。
- 最終形が見えていないからこそ、意見が反映される
- クラシックな観光案内（はじめての人にもわかりやすい，かっこいいデザイン）
- 情報発信の不足（災害時の案内，観光誘導）
- 京王線の地下化により、調布駅への入り口が分かりづらいこと。
- 調布駅周辺が便利になった、広場がある。
- 駅前が広くなりスペースの活用ができる。
- 市内の各駅を中心に，生活に不自由ないレベルで商業施設等が存在している。
- 駅前に施設、スーパー、デパートが充実してきたこと。
- 防災機能（消防・救急車両の出入り，避難スペース）としての広場
- 駅前広場の自転車流入が多い。また，公共サインがわかりにくい
- 駅前が汚い・ゴミが溜まっている
- 駅からバス・タクシー利用に際して雨に濡れない動線が必要
- 駅前の広場色んな団体が好き放題演説などの活用をしている。規制が必要だと思った。
- **駅前広場を中心に都市計画が必要だと思う。**無計画に色々な施設が計画されては再開発した意味がなくなる。
- 京王多摩川駅周辺の開発計画があるが、今後の気象変動による不安もあり、調布市が関与するメリットはあるのか。
- 歩きたくなる街（自然へのアクセス，歩行者の安全（車歩分離）⇒線路跡地の活用）
- **駅ごとの特色**，多様性のある駅前整備
- 布田の駅前広場（広くはなったが魅力は）
- **緑がない**ので日陰がない。深大寺につながっていくような緑の道がない。
- 駅前広場が暑い

景観

- 景観が良い場所が多い。
- 深大寺周辺の景観
- **多摩川**や沿道は景観が良い。
- 畑や緑が多い、広い公園がある。
- 生活風景に適度に緑が見られるところ。
- 都心に近い場所にありながら、**自然**が残されている。
- 深大寺を歩くと四季を感じられる。
- 調布の風景だとわかる、**緑が多い**
- 地下化されて各駅（布田、国領）前が整備されたが、どの駅もとても殺風景。ぬくもりを感じない。デザイン性が乏しいこと。機能とデザインは表裏一体。両方整備していく必要あり。
- 建築デザインは、安藤忠雄事務所～Arup事務所レベルの国際級を採用し、シドニーのオペラハウスのようなシンボリックな建築デザインを採用し、多摩地域の平和・文化創造のシンボル塔とする。
- 畑が減り景観や災害時のスペースが心配。特に線路周辺。
- 古民家・空き家の活用（雰囲気よく小さい公共施設を点在）
- 見えないところでごみが放棄されている
- 都市開発が進む一方、景観の保全は守らなければいけない。住宅が増えれば税収が上がるが開発が進み続けると景観が失われ、景観の良さを望んで移り住んだ人のメリットが無くなってしまう。
- 今後の住宅開発は、小規模化が進むと思われる。町の景観として統一感が失われる不安がある。
- 公園緑地が少ないこと
- 電柱の地下化・共同溝の利用
- **高いビルが建つと景観が崩れる懸念**
- 遊んでいる生産緑地が多い
- 生産緑地に農地として十分に活用されていない土地がある。

テーマ①　市街地整備(土地利用・道路・交通・住環境・景観)

強み	弱み	まとめ，キーワード等

交通環境

都内(新宿)へ**通勤する人には買い物も便利**で住みやすい。

市には一つ一つ良い要素があるのに，**インフラとしてつながっていない**

通勤には便利であるが，生活面では不便なところがある

南北方向の**バス路線が豊富**なこと。

京王線の特急・通勤快速停車駅があり、**都心との接続利便性に優れている。**駅前駐輪場が整備されている。

歩くための動線がない。計画的に野川方面、深大寺方面、多摩川方面のように明確に歩行者と自転車の為の道を作る。

道路整備

歩いて楽しみながら市内の名所を回れるような市街地整備が出来ると良い。（深大寺までの道のりをバスだけでなく，徒歩でも観光しながら行ける等）

新たに整備する道路では，歩きやすさなど時代に合わせたものを（計画はあれども）安全安心・健康の視点も

歩行者専用，緑道の整備

自転車，自動車，歩行者が分けられるように

自転車の通行が困難な場所が多い

定期的な**歩行者天国**の実施（**にぎわい創出にも寄与**）

駅前広場・駅周辺整備

駅前が広くなりスペースの活用ができる。

駅前の広場ほかの街にはない利活用ができる。

緑がないので日陰がない。深大寺につながっていくような緑の道がない。

駅前に統一感がない。統合的なデザイン

駅前広場を中心に都市計画が必要だと思う。無計画に色々な施設が計画されては再開発した意味がなくなる。

駅ごとの特色，多様性のある駅前整備

高いビルが建つと景観が崩れる懸念

景観

都心に近い場所にありながら、**自然**が残されている。

多摩川や沿道は景観が良い。

自 然

調布の風景だとわかる、**緑が多い**

自然の活かし方，残し方が課題。このままでは，自然が減少する

分科会３　テーマ①　市街地整備(土地利用・道路・交通・住環境・景観)　3/4

強み	弱み

●：２つ以上の意見

住宅

- 環境配慮型の建物の推進（高気密・断熱・太陽光発電・オール電化など）
- 建築資材の廃材の再資源化
- **高齢者がゆったり過ごせる**ところがあるといい
- 建物の老朽化への対応
- 産学官連携した空き家対策が進んでいる。ワンストップで住まいの未来に対応。
- **公営住宅の拡大**。特にこの先一人暮らし高齢者が増えることに備え、公的な『サ高住』的発想の集合住宅が必要ではないか。
- 23区ほどではないが，木造住宅密集地域がある（深大寺元町，八雲台，下石原）
- **農地が無秩序に売却され宅地化**されていくことで、インフラ計画や適性な街づくりが追い付かない可能性がある。

その他

- 財政基盤の安定
- 人口増加段階。若い世代が多い。
- 住民参加の街づくりが行われていること
- 予算執行の非効率（コンサルタントの起用法）

公共施設

- グリーンホールは，調布駅前という立地を生かして公民連携に取り組んだ方が良い
- それなりの公共施設は、充実してきている。
- クリーンセンターの跡地活用では，公民連携事業（PPP）に取り組んでいる
- 歴史文化・スポーツ・文化施設がかなり充実している。（深大寺、神代植物園、味スタ、武蔵野の森総合屋内競技場、武者小路実篤記念館、仙川劇場、下布田遺跡等）
- 旧来のゴミ償却施設やリサイクル拠点は最低限ある。
- 公共施設で再エネ比率の高い電力の調達が進んでいない。
- 民間事業者のノウハウを積極的に活用する
- 今後は建物のＺＥＢ（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化が必要になる。
- 市役所本庁舎はゼロカーボンのシンボルとしてＲＥ１００電力を導入してもよいのではないか。
- ハード面の整備とは別に、よりよく市民が使える楽しめるような公共施設運営をするためには、ソフト面の充実、仕組み仕掛けがもっと必要
- 老朽化しているグリーンホールを建て替え、総合文化創造センターを建てる。JAXA/NASAと提携したプラネタリウムも要検討。
- 機能的な公共施設（多機能・分散型）
- 充実しているのは、民間と都立や国立の施設であり、市立の施設は貧弱（美術館は無く、本格的オペラやクラシック、ミュジカルを上演出来る劇場もない。博物館も貧弱で、種々の施設が分散）。
- 箱ものが多くなっている。各施設が有機的に市民とつながっていないこと。
- 公共施設での再生可能エネルギーの使用
- 感染症対応にもキャパのある市民病院がない。大災害時の避難場所はあるが、避難所運営マニュアルや運営資材・食料・衛生・医薬品のサプライ拠点がない？またはキャパ不足？
- 国領第二仲良し広場公園なくなった、付近に新公園ほしい。
- 子供がスポーツをできるグランドが少ない。
- 整備に当っては先進的な取組を（モデルケースとなるような）ex断熱化など
- 残渣で発電など

テーマ①　市街地整備(土地利用・道路・交通・住環境・景観)

強み	弱み	まとめ，新たなキーワード等

住宅

農地が無秩序に売却され宅地化されていくことで、インフラ計画や適性な街づくりが追い付かない可能性がある。

建物の老朽化への対応

高齢者がゆったり過ごせるところがあるといい

産学官連携した空き家対策が進んでいる。ワンストップで住まいの未来に対応。

公営住宅の拡大。特にこの先一人暮らし高齢者が増えることに備え、公的な『サ高住』的発想の集合住宅が必要ではないか。

高齢者が取り残されないように

公共施設

分科会３　テーマ①　市街地整備(土地利用・道路・交通・住環境・景観)　4/4

強み	弱み

●：２つ以上の意見

防災・フェイズフリー

- 地域と連携した防災訓練
- 医療・防災施設は最低限存在する。
- 避難する際の情報伝達方法（道路の浸水状況等）
- 市の防災無線が、高層ビルで拡散するのか？耳に入りにくく機能を果たして無いと感じます。何らかの対策が必要と思います。
- 大規模地震等が発生した際の，非常電源ポータル等の設置。
- 多摩川沿いの堤防道路の高さ低い、染地も水害弱い。
- 河川，崖線の付近で災害が起こりやすい。
- 洪水氾濫エリアを大きく抱えている。
- 防災公園等の公共スペースの不足
- 今後想定される大きな地震・災害に向けて建物の耐震化等を進める。
- 公共施設や学校のフェーズフリー
- センサーやAIを駆使して自動で災害を予測する。
- 駅周辺など人口密度が高い所の防災を考える。例、重点的に畑や緑地を残していく方策や資金を検討すること。
- 気候変動により想定外の災害が発生している。今まで以上の災害に対する対策が必要。
- EUのように１００年先を見て駅周辺や防災都市構想を検討すること。
- デジタルを活用し，警報だけではなく，次のステップ（避難所情報など）を示せるような災害情報の発信
- センサーなどを活用し，スマートシティとして災害対策

デジタル化

- データを活用した効率的な街づくり
- デジタルサイネージ等を利用した市民誘導や災害情報発信。
- 駅前広場等の電光案内板の設置（多言語対応）
- タクシーを配車できるアプリなどの普及
- 申請書類等のやり取りを非接触，非対面で行えるようにして欲しい。
- 都のスポーツ施設の予約も市民が使いやすいシステムにする。
- 21世紀の社会課題である循環経済の実現に向け、市営のリユース・リサイクル拠点（教育、交流、商業、文化創造など）を整備すること。
- 災害情報のプラットフォーム
- スマートシティの取組は目指す方向性を明確にして，市民にも分かりやすいものとする必要がある。
- アナログとの融合
- 関心が薄い人たちへ知ってもらうための手段としてデジタルを活用する。(SNS・電車バスのﾃﾞｼﾞﾀﾙ広告など)
- 防災に特化した情報プラットフォームを構築し、市民から見て解り易く、日常的に使えるシステムを開発運営する。
  フェーズフリーはきちんと企画し、情報開示し、官民連携で推進すべき。
  運営は適正な民間事業者に委託し、利益を建物所有者（調布市）とシェアする。
- 交通渋滞や右左折渋滞は、信号機のAI化やカーナビとETC2.0や信号機とのデジタルネットワーク連携により改善できるはず。
- 道路網が発達した結果、人中心の街づくりができていない。これからは、ウォーカブルな街づくりが必要。（バルセロアのスーパーブロック計画のように）⇒脱炭素社会、安全安心な街づくりにつながる。
- 旧来の代議制民主制の限界に直面しており、千葉市のような議会・行政と市民との双方向のリアルタイムコミュニケーションインフラがない。
- 電通大との連携が弱い。

分科会３

テーマ②　水・緑・環境保全　1/3

強み	弱み

●：２つ以上の意見

緑（深大寺・佐須，崖線樹林）

- 深大寺，佐須地域を中心とした緑豊かな風景
- 深大寺や国分寺崖線などの緑が多い。
- 深大寺植物園などの施設や深大寺そのものの自然。
- 野川や深大寺の自然が豊富。
- 深大寺・佐須地域に野草園や佐須農（みのり）の家がある
- 環境保全市民団体による崖線樹林保全活動が実施されている
- 緑の分布のリモセンとデータ開示。課題を抽出し、対策。
- 宅地開発等で自然が減っている印象を受ける。
- 住環境エリアでも緑が豊富な地域とそうでは無い地域の差がある。
- 市街地の適度な緑。
- 二つの崖線が東西方向に走っていることで、北の地から南の多摩川へと下る分りやすい地形であること。
- 公共施設や学校に緑化がされている。
- 都心に近い立地にありながら，緑が豊富。
- 市内に自然が多いことを誇りに思っている市民の方が多い。
- 公遊園，緑道・緑地，崖線の緑の適正管理が必要
- 深大寺（多摩崖線）の湧水が十分あれば、調布の天然水としてプロモートする。
- 深大寺・佐須以外の緑についても関心を持つべき
- 緑に触れる・親しむ・楽しむ環境を

農地

- いまのところは、緑地がある程度残っていること。
- 大きな緑地帯があるところ
- 畑も含めて緑が急激に減少していること。
- 水や緑が少なくなってきている
- 農地を宅地にするのではなく，緑の空間を残せたら良い
- 都市農地を保全するためには，もっと地区計画や用途地域などの都市計画を活用して取り組む必要がある。
- 農地など既存の緑が減少していること
- 畑や緑が、相続納税や相続分割で減っている。（特例措置をやらないと、１世代≒あと２０年で市内の南半分では畑はほとんどなくなります）
- 相続が発生すると農地保護には限界がある。都市のシステムで農家が作物を栽培し続けるシステムが必要。
- 都市農地の保全を所管する部署がよくわからない。
- 田んぼや畑などの水や緑がたくさん残っている場所がある
- 農地が多く、のどかな田園風景を形成している。
- 農地、雑木林の多くは私有地であり、相続問題で売却されている。10年後にはほとんど残っていない。したがって、今ある調布の風景はなくなる。
- 遊んでいる生産緑地が多い
- 生産緑地に農地として十分に活用されていない土地がある。
- 農家と消費者のコミュニケーションづくりが必要

水・河川

- ●多摩川や野川等の豊富な水資源。
- 川が４つ流れている。水辺が比較的多く感じる。
- 多摩川をはじめ，水資源があること（結果として，花火大会が開催できる）
- 水がきれい。（だった？）
- 水辺の空間があるところ
- 多摩川自然情報がある
- 多摩川河川沿いは、スペインのビルバオや、テキサス州サンアントニオのようなwater frontを開発し、環境、交流、観光インフラとして民間委託で運営すること。
- 多摩川など市内に四季を感じられる場所がたくさんある。
- 多摩川，野川，仙川の景観
- 神代植物園、野川公園、多摩川等緑に恵まれている。（湧水が出る場所がある。佐須・染地など。）
- 多摩川周辺の浸水被害地域
- 河川の整備（氾濫，浸水等を防ぐため）

公園

- ほっとできる公園が充実している
- 公園管理に関して、市が維持管理をしているが、パークマネジメントという視点が抜けているので、使いづらい、有効に使われない公園になっている。
- 老朽化した公園設備の更新が必要
- 公園はあっても、質が低いこと。公園デザインが上手くできていない。とってつけたような遊具。地域コミュニティの拠点になる場所でありながら、予算が足りていない。

分科会３

テーマ②　水・緑・環境保全　2/3

強み	弱み

●：２つ以上の意見

環境保全・ゼロカーボン

- 環境保全活動が行われている。
- 行政の環境保全活動がある。
- 環境啓発に係る庁内広報誌ISO譜゛がこれまで100号以上発行され市職員に浸透している
- 市民団体と協働して行う環境保全の取組が多くなされている
- 子ども向けの体験型環境学習が充実している
- 地球温暖化対策啓発キャラクター「ゴヤたん」がいる
- 環境活動参加が少ない。もっと参加してもらう事必要。
- 環境問題に対する全市的な取り組みをしていきたい。
- 環境学習ができる場所が少ないところ。
- 子どもが身近で安全に自然と触れ合える場所が市内各所にあると良い。
- 市民の健全な心身の環境保全が究極目標。
- 平成12年に環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を取得し継続して取り組んでいる
- CHOFUプラスチック・スマートアクションの取組（海洋プラスチックごみ対策）
- 市役所庁舎内の自動販売機からペットボトルの販売を止めるなどプラスチック対策の積極的な取組
- 環境部署だけでなく，市役所すべての部署が再エネ導入・省エネ化を進める必要がある。
- 脱炭素社会に向けてのアクションが市民レベルに浸透していないところ。市民教育が必要。
- 太陽光発電を促す政策。単に補助金を出すだけでなく、自立分散型のエネルギーシステムを導入し、再生可能エネルギーを調布内で消費する仕組みを作る。
- 植樹を促す政策を推進する。ポイント制とし、植樹に対して何パーセントかの還元を行う。
- ゼロカーボンシティ宣言をした。
- 各部にゼロカーボン推進担当者を置いてはどうか。縦割りでは2050年排出ゼロは実現できない。
- ゼロカーボンシティを実現するためには強力なリーダーシップが必要
- 2050年二酸化炭素の排出実質ゼロできるか心配。
- 2050年調布市ゼロカーボンシティー宣言を具体化する。たぶん、ほとんどの人がこの宣言を知らなく、どんな政策や活動がなされているのかを知らない。まずは地域単位で説明会を開き、どのように達成していく予定なのかロードマップを示す必要がある。

生活環境（ごみ・受動喫煙）

- リサイクル率全国第８位（人口10万人以上50万人未満の238市中）
- ごみの減量対策・分別の徹底
- ゴミが増えているということだが、ゴミ処理費を徹底的に減らして、他の環境分野、子育て・教育分野等に予算を向けるべき。ゼロウェイスト社会の実現⇒無駄をなくして、未来に投資する。
- 各自治体で対応しているごみ処理のあり方について考える (ex：23区清掃一部事務組合)
- 調布市受動喫煙防止条例の施行（分科会１の健康づくり要素が強いが…）
- 美化活動に力を入れている。ボランティア、商店の方が取組を積極的にされている
- 環境フェア，駅前クリーン作戦など，市民・事業者・行政の協働によるイベント実施等により環境意識の向上を図っている
- タバコや飲食ゴミのポイ捨てが絶えないこと。
- 分煙対策を講じた喫煙所が少ない
- 甲州街道の排ガス・騒音リモンセンと対策。
- たい肥化の促進（落ち葉のコンポストなど）
- 生ごみの活用

その他

- 23区に隣接しているにもかかわらず、まだローカルな雰囲気が残っていること。
- 空地や市街地などに放置された，または頻度が足りていない手入れの行き届いていない自然。
- 下水管・雨水管の分流堰の機能のチェックと改善。
- 管路施設の老朽化
- 気候変動により樹木に今まで無かった病気、害虫が発生して大きな樹木が枯、景観が変わろうとしている。

分科会３

テーマ②　水・緑・環境保全　3/3

強み	弱み

●：２つ以上の意見

デジタル化

調布ゼロカーボンシティーのプラットフォームをクラウド上に作り、脱炭素の拠点とする。CO2排出量を家庭単位、個人単位レベルで可視化し、同時に削減方法も示す。また、エネルギーと食の地産地消を目指し、地域通貨を導入し、地域内の循環型経済圏を作る。

地球温暖化対策にデジタルの技術を活用し，全市民が身近に簡単に自分事として捉えられるようにする。（各家庭のCO２削減量の見える化・ゴミ排出量の見える化，それに対するインセンティブの付与等）

脱炭素情報のデジタル化、市民の見える化

ごみアプリがあること

市民参加の若い人たちへの情報発信が貧弱なのでもっとﾃﾞｼﾞﾀﾙを活用する必要がある。SNSやプッシュ型の発信。

調布市の環境対策の現状を，簡単に分かりやすく見られるようにし，良いところも改善が必要なところも調布市に関わる人みんなで共有し，問題意識をもつ。

ソーラーの授業にﾃﾞｼﾞﾀﾙﾂｰﾙが使えるはず。Googleやベネッセとか大規模でなく、地元のソフト開発とかできないのか？

透明性と双方向性と運営の民主制が担保されていること。
デジタル化の目的と評価基準（ベンチマークなど）を明らかにしてから、予算執行すること。

環境面でもデジタル化・レジリエンスの視点必要。先進的な取組が呼び水となって，さらに新しい取組につながり好循環となる。

脱炭素・エネルギー使用状況などの見える化

防災・フェイズフリー

公園などの遊具やベンチを，災害時にも利用できる仕様にする

台風等に伴う多摩川氾濫の被害を抑える施策

緑を活用した防災に強い街づくり。（コンクリートが多く浸水・冠水しやすい地域の緑化等）

里山なども日常のｷｬﾝﾌﾟや学校教育に利用する。

行政の予算と施策が縦割で充分に環境活動できない。

地球温暖化で多摩川野川氾濫の可能性は年々高まってきている。非常時にどうするかと並行し、環境レベルで氾濫させない街づくりができるか。

エネルギー(地元発電推進)と食(地元農産物=農地減少止める)の地産地消は今後必ず防災の面でも維持向上が予算を掛けても重要になってくる。

駅周辺の大型公共施設に自立分散エネルギーの導入を検討することで帰宅困難者対策として，フェーズフリーにつながる。

大型台風到来時の浸水への備え

市全体の景観を維持するために集合住宅建設に市独自の高さ制限を設けてはどうか。

学校は防災拠点でもあり，国が補助金を交付していることから，学校にリース等の自家用太陽光発電を導入してくれると地域住民は安心・安全である。

公共施設や学校にソーラー等災害や環境設備が弱い。

理科の授業で，地球環境や地震を問題として扱い，地球温暖化や災害時への理解を深める。